

## ワークショップについてご案内

ワークショップの内容は今後の調整などにより内容を多少変更する場合があります。  
また、人数制限のあるワークショップについては、応募多数の場合、参加者を事務局で調整させていただきます。その際、ご希望に添えない場合もありますが、ご容赦願います。

-----  
3時間1セットとし、午前（9時から12時）、午後（1時から4時）で同じ内容を2回行うものと、午後も継続して行うものを考えています。（午後の最初の30分間は午前の復習として新たな参加者に配慮します）

### ※参加申込書への書き方

- ・ <>内の英数はWSを表し、3Aは「テーマを決めてライブ投影の技術を磨く-午前」を現します。
- ・ 1と2は1日通しの単位で企画されていますが、半日単位での参加も可能です。その場合は、1A、1Pのように記入してください。

### 1. 科学コミュニケーションとプラネタリウム(継続)<1>

担当：遠藤(杉並区立科学館) 他

定員：15人程度(最大30名程度まで)

対象：参加者全員

内容：ワークショップの目的、

- ・ 地域とのよりよい連携をはかるための方策を考える。
- ・ プラネタリウム施設同士の連携をするためのネットワークを作る。
- ・ プラネタリウム施設の事業に科学技術コミュニケーションの思想を加えていく。

協力者：北海道大学 CoSTEP 佐藤祐介さん、渡辺保史さん

午前 話題提供「CoSTEP」

グループ活動1 兼アイスブレイク「仕事が見える化する相互インタビュー」

話題提供「企画のたて方」

グループ活動2「メンバーで企画をたてる」

午後 話題提供「スケジュールをたてる」

グループ活動3「企画書を書く」

グループ活動4「発表会」

※北海道大学 CoSTEP(<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/index.php>)では、教育活動の一環として、外部との協働をともなう 実習、演習などで、ワークショップ形式の教育活動をおこなっています。

### 2. デジタルプラネタリウムの体験学習(継続)<2>

担当：松田(川口市立科学館)他

定員：15名程度

対象：デジタルプラネタリウムに興味をお持ちの方

ただし、定員を越えた場合は、より多くの会員の皆様が参加できるように1会員1名の参加とさせていただきます。

内容：デジタルプラネタリウムの一般的な機能について、講義と実習を行います。

午前(前半) 講義：デジタルプラネタリウムとは

(後半) 実習：デジタルプラネタリウムに触ってみよう

午後(前半) 講義：デジタルプラネタリウムで使える素材とそろえ方

(後半) 講義：デジタルプラネタリウムの今後

### 3. テーマを決めてライブ投影の技術を磨く(午前・午後) <3A・3P>

担当：国司(川崎市青少年科学館)他

定員：希望者

対象：参加者全員

内容：午前(前半) プラネタリウムを使ったライブ投影の実践(学習投影編)

1. 幼児投影(幼稚園、保育園向けの投影例)

2. 小学校投影(主として、小学校4年生向けの投影例)

3. 中学校投影(主として、中学校3年生向けの投影例)

午前(後半) ドーム外において、それぞれについて、討議と情報交換。

(パワポのネタ交換なども含む)

午後 ドーム外において、ライブ投影の実践(一般投影編)

テーマを絞り、参加者全員がポインターなどを使い解説を行う。

そして、それぞれについて、討議と情報交換。

### 4. フルHDビデオプロジェクタのプラネタリウムでの活用法(午前・午後) <4A・4P>

担当：本間(府中市郷土の森博物館)他

定員：希望者

対象：参加者全員

内容：番組制作は、スライドから急速にデジタル化されつつあります。ビデオプロジェクタは、ビデオの投影機からスライドのデジタル化を担うようになってきました。フルハイビジョン映像を映し出すビデオプロジェクタが出現、低価格化になり、高画質・高解像度プロジェクタが、ビデオ化したオート番組や全天周映画にかわって、ビデオムービーの上映を可能にしてきました。今回のワークショップでは、

- ・ パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使ったスライド番組の構成
- ・ 「MITAKA」や「ステラナビゲーター」などを使ったライブでの活用

- ・ 「ひので」や「かぐや」などのフルHDムービーの上映など、フルHDプロジェクタの解像度を生かす使い方を実習します。

#### 5. プラネタリウムのトラブル 種類と解決法(午前・午後)〈5A・5P〉

担当：長谷川(白井市文化センター・プラネタリウム)他

定員：希望者

対象：未解決の機器トラブルを抱え、日夜奮闘している担当者。

(大規模更新計画のある館の担当者は対象外)

内容：館運営の意見交換とトラブル対処実践例や「小規模」更新例の発表を通し、館を維持しつつ、活性化していく方策を探ります。参加者全てが発表者となります。

※館運営、年間事業計画、番組制作方法や予算など公表可能な資料を持参。